

研究区分	教員特別研究推進 地域振興
------	---------------

研究テーマ	保育現場における描画アセスメントの可能性：新任保育者を対象に				
研究組織	代表者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子
	研究分担者	所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
		所属・職名		氏名	
	発表者	所属・職名	短期大学部・教授	氏名	小林 佐知子

講演題目	保育現場における描画アセスメントの可能性：新任保育者を対象に
------	--------------------------------

研究の目的、成果及び今後の展望	<p>【目的】描画には、幼児の発達や情緒を理解するための“アセスメント・ツール”としての機能がある。その機能は、保育現場でどの程度役立てられているだろうか？幼児期の描画発達に関する研究は散見されるが（例えば郷間, 2013；磯部, 2017；小林, 2021）、保育者を対象とした描画アセスメントに関する実証的研究はほとんどみられない。そこで、本研究は描画から幼児の発達や情緒を捉えるスキル（本研究では「描画アセスメントスキル」とする）が日常の保育場面での子ども理解にどのように役立つのか検討することを目的とする。本発表では、新任保育者に焦点をあて、保育者養成機関での学びや現時点での描画アセスメントスキルの実態について検討する。</p> <p>【成果】</p> <p>静岡県内の公立幼稚園初任者研修会に参加した新任保育者 43 名中、16 名（全員女性）が調査に参加した。Web 上で質問紙調査を行った。2 回に亘る縦断調査のうち第 1 回の調査結果を分析した。</p> <p>結果 1：「描画アセスメントに関する学びの経験」について 学びの経験が「ある」と回答した人は 12 名 (75.0%) で、全員が幼児の描画発達に関する知識を習得していた。一方、描画アセスメントに必要なスキルや知識について学んだ人は 5 名と約半数であった。発達を見立てるための具体的な手段について学ぶ機会は多くない様子が見られた。</p> <p>結果 2：「描画アセスメントの実態」について KH Coder を用いて自由記述のテキストマイニング分析を実施した。子どもの発達に関しては、女児よりも男児に発達が気になるエピソードが多く、「顔」「足」等の描出に着目する傾向が示唆された。子どもの情緒に関しては、色の使い方や人物や目の描き方が気づきのきっかけになっていた。</p> <p>結果 3：「描画を介したコミュニケーション」について 「上手」「ほめる」が多く、次に「認める」「聞く」（何を描いたのかを尋ねる）が多かった。以上から、描画アセスメントの知識を習得することにより、経験が浅い新任保育者でも描画アセスメントを行うことができることがうかがわれた。また、“ほめる”よりも“尋ねる”を主体としたコミュニケーションを通して、描画を理解しようとする姿勢がより一層求められることが示唆された。</p> <p>【今後の展望】 第 2 回調査の結果が得られた後、縦断データの分析を行って描画アセスメントに関する半年間の変化を検討する予定である。</p>
-----------------	--